

みんなの共同作業 —— 対話による人づくり

数々のソフト・ハード事業を展開してゆくためには、住民をはじめ行政、民間、さまざまな専門家等多くの人々の共同作業が必要です。人間が創造してきた文化遺産のすべては、人々の共同作業によるもので、室生寺はその最も優れた証のひとつです。景観を保全活用し、生活基盤を整備しながら未来への文化遺産となる村づくりをめざすためには、人々の知恵と才能にもとづいた対話が不可欠です。そこでは、アーティストのオリジナリティあふれる自由な発想が、自分たちが住んでいる足もとを見つめ直す新たな対話の媒体となってくれるでしょう。このような新たな対話から生み出された新しい視点が、未来への文化遺産を生み出す原動力となるのです。

生活基盤と文化基盤の同時整備 —— 室生らしい風景づくり

この計画では独自の発想で室生らしい風景の創出をめざします。次々と新しいものを加えて、結果としてますます混乱をきたしているような都市的な発想とは逆です。室生村では、道路、橋、トンネル、地すべり対策等の基盤整備を行う場合、自然・文化環境の保全及び利活用を同時にめざしてゆきます。経済効果優先の国土開発は、さまざまな環境破壊、風景の画一化をもたらし、近年批判が高まっています。特に戦後、私たちは将来に向け誇りをもって伝えてゆけるもの、場所を創り出してきたでしょうか？そこで、村に住む人々が永年かけて育んできた里山の美しい景観という原点にたちかえり、周囲の自然、歴史と調和し共生してゆく環境とは何かを、現代の視点からとらえ直します。このことが、長期的には未来へ伝える文化遺産となるような環境づくり＝理想郷（アルカディア）となるのです。

伝統産業、地場産業の再発見 —— 新たな産業づくり

室生村に永年伝えられてきた個性豊かな伝統産業や地場産業等の地域資源を最大限に活用し、またアーティストとの交流を通じて、新たな質の高い産業化をめざします。同時に、美しい景観を創り出し、住民主体のソフト事業を積極的に推進して、地域を活性化するための交流事業を展開してゆきます。

住民一人ひとりの感性を刺激し、心を豊かにする「心の活性化」こそが、長期的には地域全体の活性化につながり、人間らしく生きることのできる環境づくりに大きく寄与することになるのです。

歴史

■地域資源（室生村の特性）

- 豊かな自然景観
- 室生寺等の優れた文化遺産
- 山村に息づく生活、伝統文化

現代 文化芸術運動

■現代の芸術的視点

- 景観の保全、活用
絵になる風景、故郷の風景を保つ/
古道、伊勢街道、自然道の整備
- 公共事業とアートとの融合
生活基盤と文化基盤の同時整備
→室生らしい風景をつくる
- 文化芸術活動の拠点づくり
風景を体験するための美術館/
アーティスト村
→文化交流、発信の場づくり

■住民主体の地域づくり

- 地域文化、生活文化の再発見
民家の活用、フィールドミュージアム
（生きた博物館）/
農林業+アートの体験の場づくり
- 文化交流、発信
アーティストとの交流（実技指導、
ワークショップ、滞在制作等）/
イベント、展覧会（地元素材による）
- 伝統工芸とアートによる産業化
藍染、草木染、木工細工を活用した
オリジナル商品開発/
間伐材、地元産品の利用、流通

現代の理想郷の実現＝未来への文化遺産

「むろろアートアルカディア計画」

完成 / 進行中のものを中心としたハード事業の現状

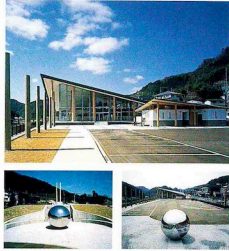
※①～⑦は室生20景に選定された地区(一部)



①竜王ヶ淵 / 向淵

道の駅

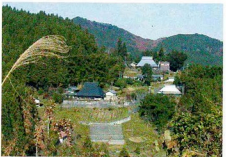
室生村の東入口、三本松に1998年オープン。建物を含む空間全体を、井上武吉氏がデザインした「my sky hole 地上への願望」。ふるさとの風景を映し出し室生の大地を象徴する村の新しい文化の拠点。計画全体の起点となる。



②大野寺周辺 / 大野

県道の擁壁

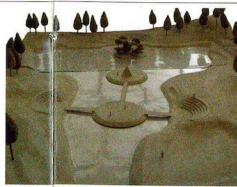
室生寺へ向いたる道路工事に、地元の閑伏村を活用し室生の山並をイメージした擁壁を制作。彫刻家土屋公雄氏(2000年完成)。



③草葺き民家群 / 下田口

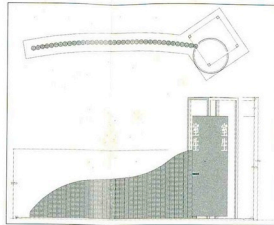
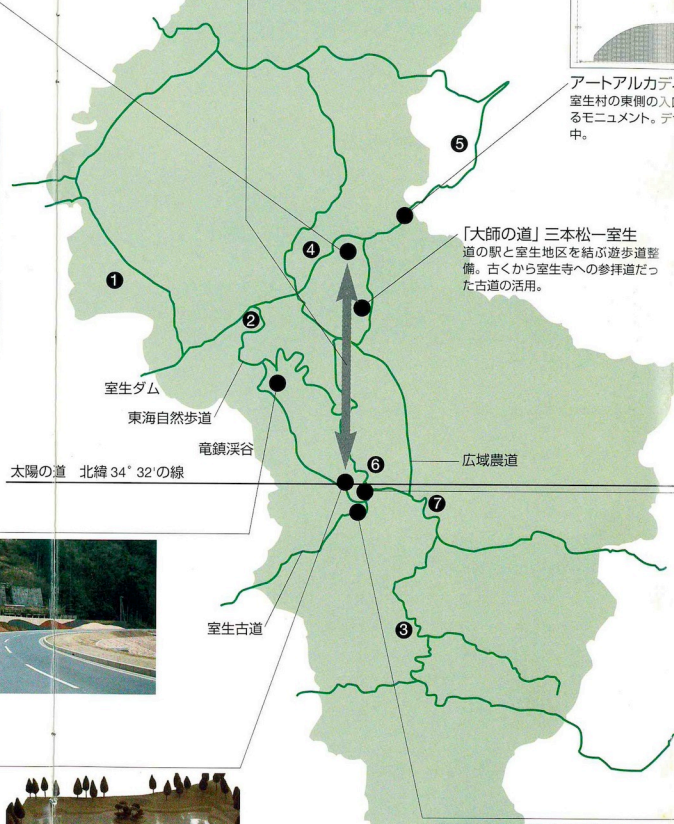


「山の上のモニュメント」室生
現在、彫刻家ダニ・カラヴァン氏が構想中。
(詳細p.13-17参照)



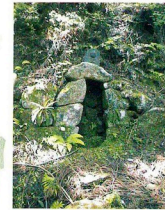
文化軸

室生寺を訪れる観光客は年間約30万人。周辺地区を整備した文化拠点をつくり、魅力ある交流の場として活性化することが図られている。さらに、室生村の入口、三本松、道の駅と室生寺周辺、山の上のモニュメントを古道「大師の道」で結ぶ文化軸を創出し、計画が村全体へと広がることをめざす。



アートアルカディア計画広報モニュメント
室生村の東側の入口に設置。計画を周知し象徴するモニュメント。デザイナー勝井三雄氏により整備中。

「大師の道」三本松-室生
道の駅と室生地区を結ぶ遊歩道整備。古くから室生寺への参拝道だった古道の活用。



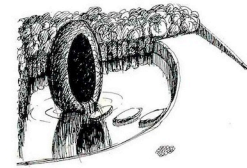
④伊勢街道周辺 / 三本松



⑤鎮守の森 / 深野

「弘法の井戸」

古くから室生村に伝わる「弘法の七つ井戸」を地すべり対策事業の修景整備と一体となり整備するもの。彫刻家長沢英俊氏デザイン、整備中。



⑥室生寺 / 室生



「野外舞台」室生

あざざりホール周辺の整備として、地すべり対策事業修景整備と一体となり実現。自然の傾斜を利用、室生寺を借景とした半円形劇場。地域文化の発表の場、内外の文化活動の場。

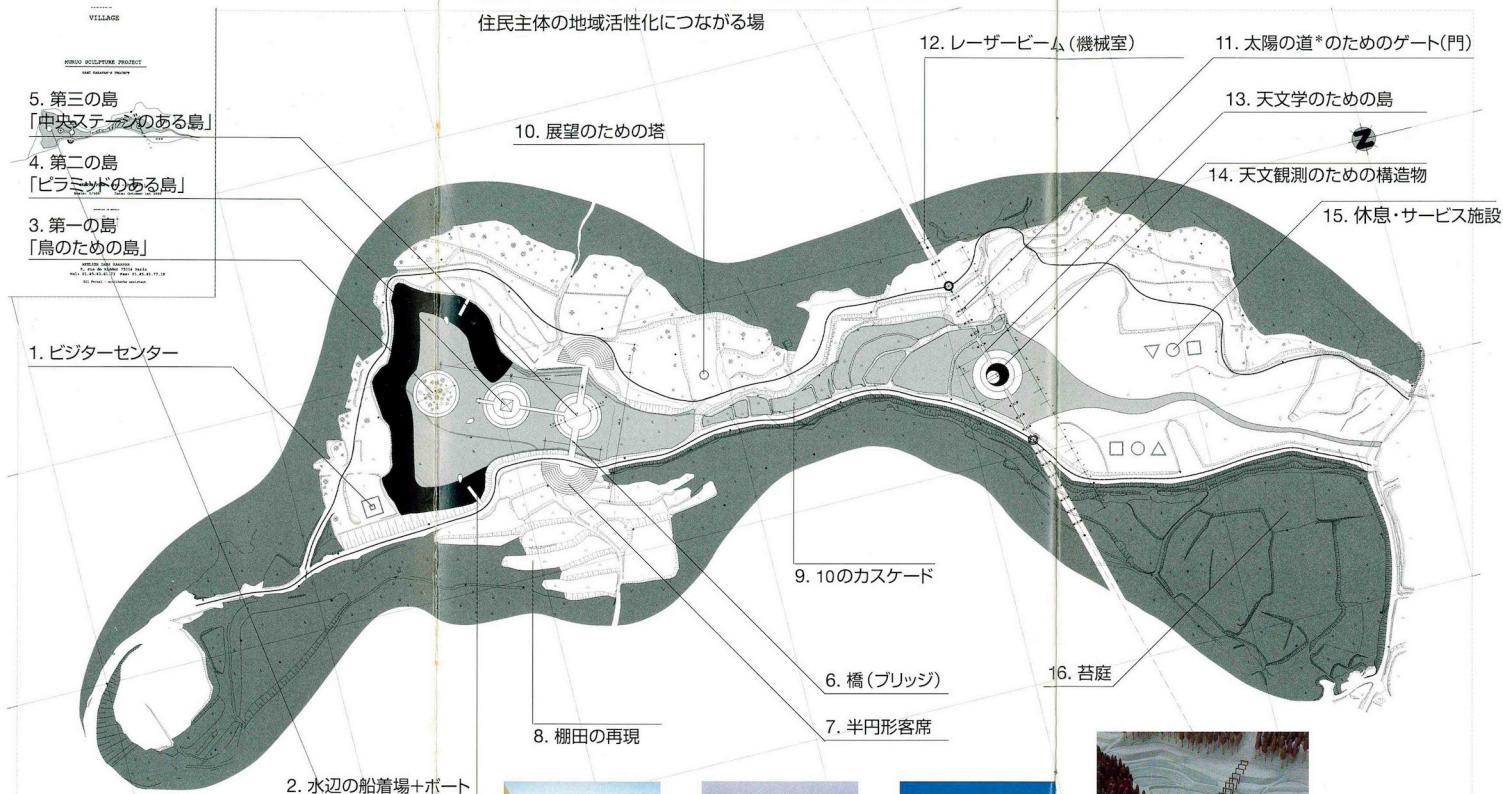


⑦竜穴神社 / 室生

山の上のモニュメント 整備構想

ダニ・カラヴァン

地すべり対策事業とアートが融合したシンボル空間
 太陽の道、森の回廊という二つの軸線が互いに交差する場
 時空間を超えて人々を引き付ける交流の場
 室生寺へとつづく一連の磁力をもった癒しの空間と出会う場
 住民主体の地域活性化につながる場

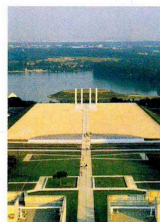


ダニ・カラヴァン(1930-)彫刻家、環境造形家

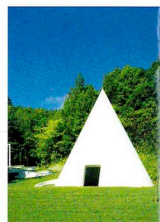
イスラエルのテル・アヴィヴ生まれ。1960年代より環境芸術の第一人者として、ヨーロッパ、イスラエルを中心に建築、都市計画、芸術といった枠組みを超えた大規模な作品を数多く制作している。与えられた場所との対話を通じて、環境と調和し、場所の自然、歴史、記憶等の特徴を新たな視点から表現し、人々がそれぞれの感性で空間を体験できる装置を創り出している。



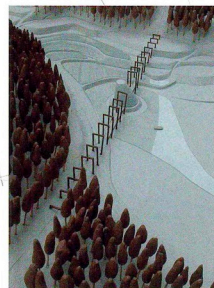
〈バサージュ〉スペイン



〈大都市軸〉フランス



〈隠された庭への道〉札幌



*太陽の道

古代から、奈良盆地と伊勢神宮を結ぶ北緯34度32分上には重要な寺、神社等があり、太陽信仰との関係が深いといわれている。(写真家 小川光三氏による)室生寺もこの線上にある。